



AGCグループ企業理念 ***“Look Beyond”*** 解説書

AGC

Your Dreams, Our Challenge

AGCグループ企業理念 “Look Beyond” 解説書について

AGCをAGCらしくしているものは、何だろう？

私たちはAGCグループのどんなところを誇りに思い、未来へ受け継ぎたいのだろう？

“Look Beyond”を実践する行動とは、何だろう？

“Look Beyond”は、AGCグループのすべての事業活動・社会活動を貫く企業理念です。AGCグループは2002年にこの企業理念を策定して以来、時代に合わせて内容を改定しながら、全グループメンバーで共有してきました。

本解説書は、AGCグループがこれまで歩んできた歴史や社会に提供する価値、将来に向けた取り組みの紹介を通じて、AGCグループメンバーの皆様に “Look Beyond” に込められた想いを感じていただくことを目的としています。

この冊子を通じて企業理念 “Look Beyond” を深く理解し、“Look Beyond” を日々体現することで、グループメンバー一人ひとりがAGCグループとともに成長・進化していきましょう。

紹介ツール

本冊子含め、さまざまなツールがあります。
ご活用ください！
(https://agcgr.sharepoint.com/sites/kouhou_library/SitePages/Look-Beyond.aspx)



解説動画 (CEOインタビュー)



企業理念紹介スライド

周知ツール



ポスター



サインージ用動画



小冊子

CONTENTS

02 AGCグループ企業理念 “Look Beyond”

03 “Look Beyond” の実践

04 Our Purpose 私たちのパーパス

05 AGC、いつも世界の大事な一部

08 Our Shared Values 私たちの価値観

09 Innovation & Operational Excellence

11 Sustainability for a Blue Planet

13 One Team with Diversity

15 Integrity & Trust

17 Our Spirit 私たちのスピリット

18 創業者・岩崎俊彌の挑戦

19 AGCグループの挑戦の歴史

21 CEOメッセージ

22 「企業理念」と「ブランドステートメント」の関係

“Look Beyond”

“Look Beyond” は、AGCグループのすべての事業活動、社会活動を貫く企業理念です。この言葉には、次の想いが込められています。

“Look Beyond” 将来を見据え

“Look Beyond” 自らの領域を超えた視点を持ち

“Look Beyond” 現状に満足せずイノベーションを追求し

グループ全体が持つ大きな潜在力を発揮し、世界に価値を提供し続けます。

企業理念体系図

AGCグループが世の中に
提供するべき価値、
グループの存在意義

Our Purpose
私たちのパーパス

“AGC、いつも世界の大事な一部”
私たちは先を見据え、独自の素材・ソリューションで、
いつもどこかで世界中の人々の暮らしを支えます

AGCグループの全員が、
あらゆる行動の基礎として
共有する重要な考え方

Our Shared Values
私たちの価値観

- Innovation & Operational Excellence
- Sustainability for a Blue Planet
- One Team with Diversity
- Integrity & Trust

AGCグループの全員が、
世代を超えて受け継ぎ、
実践していく基本精神

Our Spirit
私たちのスピリット

“易きになじまず難きにつく”

“Look Beyond”の実践

“Look Beyond” 将来を見据え

“Look Beyond” 自らの領域を超えた視点を持ち

“Look Beyond” 現状に満足せずイノベーションを追求し グループ全体が持つ大きな潜在力を発揮し、 世界に価値を提供し続けます。

“Look Beyond” という言葉は、3つの枠を超えて チャレンジしていくというAGCグループの姿勢を表しています。

まずは、時間の枠。AGCグループは素材の会社です。素材は、研究開発から量産を経てお客様の手に渡るまでに非常に長い時間がかかります。5年、10年、時には20年以上かかるものもあります。したがって、私たちは今この瞬間だけではなく将来を見据えることが重要です。

次に、領域の枠。会社が大きくなると組織がサイロ化してしまいがちですが、AGCグループは事業・部門の枠を超えた協働を推進しています。また、社内だけでなくAGCグループ自体の枠も超えて、お客様視点、社会視点で物事を捉え、行動していきます。

最後に、現状・常識の枠。個人も組織も、現状に満足した瞬間に成長は止まります。社会的価値と経済的価値を提供し続けるため、置かれた環境や世の中の常識をただ受け入れるのではなく、常にイノベーションを追求してチャレンジを続けていきましょう。

右記では、“Look Beyond”を体現したAGCグループメンバーの活動をご紹介します。

将来を見据え

将来の環境規制に対応し社会的価値を創出

EPINITY®は、保護コーティング、電子部品、接着剤、先進複合材料など、さまざまな産業で主要原料として使われるバイオベースのエピクロロヒドリン(ECH)です。当社は先駆者として、長年にわたり高品質なバイオベースECHを信頼性高く供給することで、お客様やエンドユーザーが炭素削減目標を達成し、カーボンネットゼロを実現するのを支援しています。12年以上のECH生産実績をもとに、EPINITY®を通じて地球の未来のために持続可能な解決策を見つけるお手伝いをしています。



PanUsa
Kongmunwattana
AGCビニタイ社

自らの領域を超えた視点を持ち

グローバルチームで新たなビジネスを確立

自動車用超異厚合わせドアガラスのビジネスにおいては、米欧間でグローバルプロジェクトチームを編成しました。具体的には、欧州のB&I部門で素板ガラスを生産し、欧州のオートモーティブ部門で加工した後、米国に輸送し、合わせガラス積層と最終アセンブリーを行う新たな体制を確立しました。本プロジェクトは、グローバルレベルの協力とAGCグループの精神を体現した好事例で、我々はこれまで誰も成し得なかったことに挑み成功しました。



Eric Rogers
AGCオートモーティブ・
アメリカ社

現状に満足せずイノベーションを追求

常識に捉われない発想でガラス製造のサステナビリティに貢献

板ガラス製造の長い歴史において、市場に出回ったカレットはさまざまなコンタミが混入するリスクが高いため、板ガラス製造業で消費することは難しいのが常識でした。私たちはその世間の認識を変えていくことから進めていきました。AGC個社の活動では進めることは難しく、建築ガラス アジアカンパニー全体で協力して進めることで、お客様とつながることができ、新たなカレットソースの戦力化、その成功によるプレスリリースに漕ぎつくことができました。今後の営業活動にプラスに働く兆しも見えてきています。



長尾 祥浩
建築ガラスアジア
カンパニー



“Look Beyond”

Our Purpose

私たちのパーパス

AGC、いつも世界の大事な一部

私たちは先を見据え、独自の素材・ソリューションで、いつもどこかで世界中の人々の暮らしを支えます

100年を超える歴史の中で、いつの時代も、私たちAGCグループは、「独自の素材・ソリューション」の提供を通じて、
時代をリードする産業や、世界各国の社会・経済の発展を支えてきました。

「AGC、いつも世界の大事な一部」は私たちの存在意義であり、私たちが提供したい価値を表す言葉です。

AGCグループのメンバーは、世界中の人々の暮らしを支えるために

日々の業務に取り組んでいます。

「私たちのパーパス」は、私たち一人ひとりの中から湧き出る動機であり道標。

この「パーパス」を胸に、AGCグループはこれからの100年もいつも世界の大事な一部として
世界中の人々の暮らしを支えていきます。





AGC、いつも世界の大事な一部



たとえば、「脱炭素社会」の実現に貢献する

ビルの省エネルギー化を支える「Low-Eガラス」

古くから建物の窓に用いられてきたガラスは、室内に外光を取り入れ雨風を防ぐことで人々に安全・快適な生活をもたらしてきました。持続可能な社会への貢献が求められる中、進化した建築用ガラスは建物のサステナビリティにも大きく寄与しています。

住空間の冷暖房効果を高めることは、省エネルギーを実現し、CO₂排出量の削減を図る効果的な方法です。AGCグループでは、ビル・住宅の冷暖房効果を高める「Low-Eガラス」を提供し、CO₂削減効果による地球温暖化防止に貢献してきました。多くの政府が2050年のカーボンニュートラル実現を目指し、CO₂排出量の削減がこれまで以上に求められる中、省エネをもたらすガラスの需要はますます高まっています。AGCグループは、引き続き「Low-Eガラス」の普及拡大と機能性の向上に取り組んでいきます。

たとえば、「水道水」の安定供給を支える

上下水道の消毒剤「次亜塩素酸ソーダ」と水道管の「塩化ビニル樹脂」

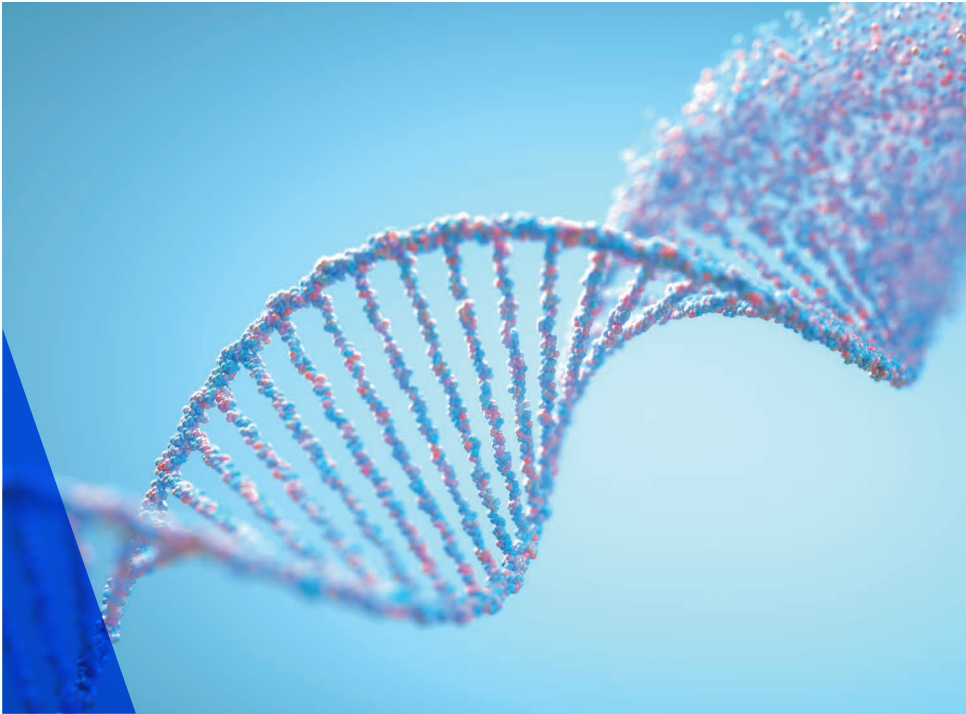
ガラスの主原料であるソーダ灰の製造から始まったAGCグループの化学品事業。そのケミカルチェーンから生まれる多様な製品は、さまざまな場面で人々の暮らしに貢献しています。

たとえば水道水。生活に必要な水の安定供給には「利用できる水を供給し、排出後に再利用できるように浄水する」というサイクルが欠かせません。浄水場では水道水の消毒に、下水処理場では下水の消毒に「次亜塩素酸ソーダ」が使用されています。また、社会インフラである水道管には「塩化ビニル樹脂」が使われています。このようにAGCグループの製品は、安心して利用できる安全な水の供給と排水のサイクルを通じて、私たちの毎日の生活を支えています。





AGC、いつも世界の大事な一部



たとえば、「医薬品・農薬」の受託開発・製造サービスを提供する 安心・安全な未来をつくる「医薬品・農薬CDMO」

世界的な人口増加と長寿命化等から医薬品や農薬市場は成長を続けており、加えてプロセス開発や製造の外部委託ニーズが高まっています。AGCグループが担っているのは、製造プロセスの開発や製造を受託するCDMO事業。パフォーマンスケミカルズ事業で培った有機合成技術をベースとした合成医薬品・農薬はもとより、バイオ医薬品や最先端分野である遺伝子・細胞治療薬にも注力しています。今後お客様の多様なニーズに応える高品質なサービスを通じて、世界の人々の安心・安全で快適・健康な暮らしに貢献していきます。

たとえば、「モビリティの未来」を拓く

自動車とICTの融合を加速する「車載ディスプレイ用カバーガラス」

AGCグループは、1956年に自動車加工ガラス事業に参入して以来、自動車の窓ガラスを通じて、クリアな視界と安全な車内環境を提供するとともに、世の中が求めるニーズを先取りしてデザイン性や機能性・快適性を追求してきました。近年ではガラスが提供する価値は「情報」の領域にも広がっています。

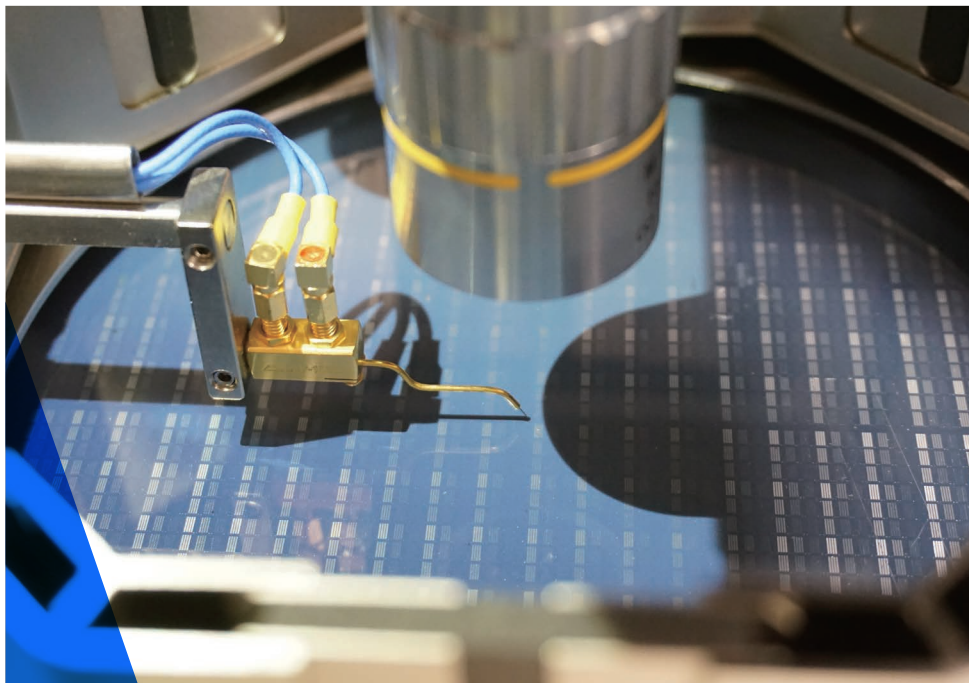
将来実用化が期待される自動運転車においては、走行状況、目的地情報といったドライバー支援情報や、映画等の室内エンターテインメントを提供する機会が格段に増え、車載ディスプレイがスマートフォンのように活用されると想定されます。また、オーディオやカーナビ、エアコンなど各種車載機器操作においても、ディスプレイ上のタッチパネルへの統合が進んでいます。AGCグループでは、これらの表示・操作を行う車載ディスプレイで用いられる、高い強度や耐傷性、低反射性などの機能を備えたカバーガラスを提供しています。すでに100車種以上に採用され、人々の安全で快適なドライブ環境の実現に貢献しています。AGCグループでは、引き続きCASE※による市場変化を的確に捉え、車載ディスプレイ用カバーガラスの付加価値創出に取り組んでいきます。

※ Connected(コネクト)、Autonomous(自動運転)、Shared & Service(カーシェアリングとサービス)、Electric(電気自動車)





AGC、いつも世界の大事な一部



たとえば、デジタル社会の進化をけん引する

最先端半導体製造に欠かせない「EUV露光用フォトマスクブランクス」

AGCグループの高純度で低膨張の合成石英は、半導体産業の精密露光技術に必要不可欠なレンズ材料として、長年にわたって半導体の微細化に貢献しています。

より波長の短い光を用いる次世代半導体の露光技術に欠かせないEUVマスクブランクスでは、これまで培ってきた石英基板の技術を深化させ、薄膜形成技術を組み合わせることで、材料・研磨・洗浄・成膜までの一貫生産による製品の提供を実現しました。さらに高性能で低消費電力な次世代半導体生産への貢献を通じて、人々のより便利な暮らしとCO₂排出削減を実現していきます。

たとえば、「水素社会の発展」に貢献する

水素バリューチェーンに欠かせない「FORBLUE™ファミリー」と「フッ素樹脂」

食塩電解から始まるAGCグループのケミカルチェーンは、時代と共に発展を続け、フッ素系の高機能製品分野へ枝葉を広げてきました。フッ素系イオン交換膜「FORBLUE™フレミオン™」は、水銀を必要としない食塩電解プロセスを実現しました。そこからさらに技術を発展させ、水素をつくる工程で使用するフッ素系イオン交換膜「FORBLUE™ Sシリーズ」や、水素をつかう燃料電池の電解質膜・電極に用いられるポリマー分散液「FORBLUE™ iシリーズ」など、水素エネルギーの活用に必要な素材を提供しています。また、水素の貯蔵タンクや運搬用ホースなど、水素をはこぶ・ためるための製品にはフッ素樹脂が使用されています。AGCグループは技術開発に挑み続け、水素を「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった水素バリューチェーン全体に対して幅広いソリューションを提供し、水素社会の実現に貢献していきます。





“Look Beyond”

Our Shared Values

私たちの価値観

AGCグループメンバーが共有する 「4つの価値観」

これら4つの価値観は、AGCグループの全員が
あらゆる行動の基礎として共有する重要な考え方です

- Innovation & Operational Excellence
- Sustainability for a Blue Planet
- One Team with Diversity
- Integrity & Trust





Innovation & Operational Excellence

- 常に先を見据え、イノベティブな技術、製品、サービスを追求します
- 不断の改善によって、卓越した品質と効率を追求します
- イノベーションとオペレーショナル・エクセレンスの両面で、新しい価値の創造に挑戦し続けます





Innovation & Operational Excellence

- 常に先を見据え、イノベティブな技術、製品、サービスを追求します
- 不断の改善によって、卓越した品質と効率を追求します
- イノベーションとオペレーショナル・エクセレンスの両面で、新しい価値の創造に挑戦し続けます

Innovation & Operational Excellenceは、AGCグループの強みであり競争優位の源泉です。AGCグループはその歴史の中で、常に将来の社会変化を予見し、イノベティブな技術・製品・サービスを追求してきました。また、お客様を含むステークホルダーの期待に応えるため、事業・業務の現場を支えるグループメンバーが、卓越した品質と効率を目指し、不断の改善に挑み続けてきました。このように、Innovation & Operational Excellenceには、「イノベーションの追求」と「あくなき改善に挑み続けること」の両方に取り組むことの大切さが込められています。

AGCグループには「Operational Excellence」の追求により高品質な製品の安定供給を実現し、安定した収益創出に貢献する事業もあれば、変化する時代のその先を見据えて、最先端の技術とこれまでにはない発想で新たな価値を創出し、新時代のスタンダードとなるような「Innovation」を起こす事業もあります。しかしながら、「コア事業=Operational Excellence」「戦略事業=Innovation」と短絡させるべきでは

ありません。コア事業も戦略事業も「イノベーション」と「あくなき改善」の両方が求められます。

たとえば、コア事業においても内外の環境にはさまざまな変化が起こっているため、ビジネスモデルの変革や技術革新といったイノベーションを常に求めていくことが必要です。また、戦略事業においても社会から求められる製品を開発して終わりではなく、オペレーショナル・エクセレンスによる安定したモノづくりを通じて社会に製品を供給して初めて事業が成立します。したがって、私たちグループメンバー全員が「イノベーション」と「あくなき改善」の二つの要素を追求することにより社会に価値を提供していく。これが私たちの価値観「Innovation & Operational Excellence」なのです。

AGCグループのすべての事業組織が、そして全世界のグループメンバー一人ひとりが、Innovation & Operational Excellenceに挑戦することが、AGCグループの企業価値向上につながります。





Sustainability for a Blue Planet

- 持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らも成長・進化し続けます
- 社会的価値の創出を通じ、経済的価値を実現します
- 安心・安全な職場環境の実現に努めます





Sustainability for a Blue Planet

- 持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らも成長・進化し続けます
- 社会的価値の創出を通じ、経済的価値を実現します
- 安心・安全な職場環境の実現に努めます

気候変動リスクの増大、大量生産・大量消費・大量廃棄社会の限界、生態系の崩壊などにより、私たちの地球は、その持続可能性が危ぶまれています。また人口増加、格差の拡大、社会の分断、人権問題など、人類はさまざまな社会課題に直面しています。

このような状況の中、社会の持続可能な成長を実現し、同時に世界中のすべての人々の心身・社会的な健康、幸福を両立するにはどうしたら良いでしょうか。これからの時代、持続的に成長し続ける企業は、こうした情勢を的確に捉え、地球社会の持続可能な開発・発展に貢献することが求められます。

素材・ソリューションの研究開発から事業化までに長い期間を要するAGCグループは、グループ自体が持続可能な企業体でなければなりません。私たちは「Sustainability for a Blue Planet」という価値観のもと、企業としての持続的な成長を目指します。社会的な価値の創出により社会課題の解決に貢献すること

で、AGCグループ自身も経済的な成長を遂げていきます。

環境面では、事業活動に伴う温室効果ガス（GHG）排出削減や資源の有効活用などを通じ、地球に対するネガティブインパクトの最小化を図るとともに、製品・ソリューションの提供を通じた環境問題の解決に貢献していきます。また社会的な側面では、人々の安心・安全な暮らしに貢献することを目指します。

AGCグループは社会の安心・安全を支えるさまざまな素材・ソリューションを提供しています。そして、素材・ソリューションの創造・提供を支えるグループメンバー一人ひとりが、安心して安全に働けるよう職場環境の整備に努めています。





One Team with Diversity

- 常に異なる視点・意見を尊重します
- あらゆる属性にこだわらず、多様な能力・個性を求め、互いの強みを活かし、One Teamで新たな価値を生み出します





One Team with Diversity

- 常に異なる視点・意見を尊重します
- あらゆる属性にこだわらず、多様な能力・個性を求め、互いの強みを活かし、One Teamで新たな価値を生み出します

One Team with Diversityという価値観には「多様な個性(多様性)を大切にすること」と「多様な個性のメンバーが一つのチームとなること」という意味が込められています。AGCグループでは、全世界で5万人を超えるグループメンバーが働いており、ここには多様な属性・バックボーンと多様な能力や考え方を持つ人財が数多く集まっています。AGCグループが多様性を大切にしている理由、それは多様性こそがイノベーションの源泉ということを理解しているからにほかなりません。

私たちAGCグループメンバーは、異なる意見や考えを積極的に求めてそれをぶつけ合い、掛け合わせることで新たな価値の創出に挑んでいます。

新たな価値を生み出すためには、グループメンバー一人ひとりが、自ら積極的に意見を出すこと、そして自分とは異なる意見を積極的に求め、それに耳を傾ける必要があります。自分の意見を押し付け合うだけでなく、互いの意見をしっかりと聞き、コミュニケーションを図ることで、信頼関

係を築き、多角的な視点で物事を議論することが可能になります。その結果として、これまでにない発想や技術が生まれやすくなるのです。

そして、組織としてイノベーションを創出するためには、同じパーパス・価値観を共有し、One Teamで力を発揮することが大切です。AGCグループメンバー一人ひとりが企業理念“**Look Beyond**”を共有し、One Teamとなって、新たな価値の創造に取り組んでいきましょう。

イノベーションとダイバーシティ

「イノベーション」という概念は、オーストリアの経済学者・ヨーゼフ・シュンペーターによって世界で初めて提唱されました。彼は、自著「経済発展の理論」の中で、「イノベーションとは単体ですでに存在するものの、それまでに組み合わせることがない要素同士を結び付けることで、新たな価値を創造することである」と説明しています。

イノベーションは「異なる要素とその組み合わせ」が生まれる場所、すなわち「ダイバーシティのあるチーム」から生まれるのです。





Integrity & Trust

- 高い倫理観に基づき、法令や規制を厳格に遵守し、あらゆる関係者と透明・公正な関係を築きます
- 提供するあらゆる製品・サービスについて、お客様の満足と信頼を得るための責任を全うします
- 誠実な行動を通じて、社内外の関係者との信頼を培います





Integrity & Trust

- 高い倫理観に基づき、法令や規制を厳格に遵守し、あらゆる関係者と透明・公正な関係を築きます
- 提供するあらゆる製品・サービスについて、お客様の満足と信頼を得るための責任を全うします
- 誠実な行動を通じて、社内外の関係者との信頼を培います

AGCグループは「Integrity(誠実さ)」を持った行動を通じて、ステークホルダーとの「Trust(信頼)」を築いてきました。「Integrity & Trust」という価値観は、ビジネスシーンはもとより、ありとあらゆる社会的な営み、人と人との関係性の礎となる概念です。

AGCグループでは、「Integrity」を実践するため、メンバー一人ひとりが法令や企業倫理に基づいて業務を行うことを定めています。私たちは厳格に法令や規制を遵守し、さらに企業に求められる高い倫理観を持って行動する必要があります。これらは企業が存続し、さらに持続的に成長を遂げていく上で必要不可欠です。

そして、常に「Integrity」を持って行動し高品質な製品やサービスを提供することでお客様の期待に応え、その結果として「Trust」を得ることができます。この取り組みを継続していくことで、お客様との強固な信頼関係を築くことができ、「お客様から最初に声がかかる存在」であり続けることができるのです。お客様から最初に声が

かかることで、社会的価値創出の機会が増え、ひいては経済的価値の創出にもつながります。

さらに、誠実な行動による信頼関係はお客様など社外の関係者との間だけではなく、AGCグループメンバーの間においても、とても重要です。AGCの良き文化である「風通しの良さ」も信頼関係がなければ成り立ちません。互いに信頼し合える関係があるからこそ、相手と異なる意見を主張したり、自分の抱えている課題を率直に相談したりできる風土が生まれるのです。

日常の業務の中で常に襟を正し、自分の行動が「Integrity」にかなっているだろうかと、自らに問いかけてください。日頃の誠実な行動の積み重ねが、社内外のステークホルダーからの信頼を培っていくのです。





“Look Beyond”

Our Spirit

私たちのスピリット

易きになじまず難きにつく

私たちのスピリット「易きになじまず難きにつく」は、
日本初の板ガラスの製造に挑んだ創業者・岩崎俊彌が難局に直面する中で見いだした創業の精神です。

AGCグループは、その歴史の中で、幾多の難局に直面し、
そのたびに難局を乗り越え、企業として成長してきました。

目先の利害にとらわれず本質的な課題に向けて挑戦するという私たちのスピリットは、
110余年の歴史を超えて、今も大切に受け継がれるAGCグループのモノづくりおよび経営の原点です。

時代・社会が必要とする独自の素材・ソリューションを創出する挑戦のスピリットは、
世界中で働くAGCグループの全メンバーへと受け継がれています。





創業者・岩崎俊彌の挑戦

「板ガラスの国産化」という“難題”に挑む

その挑戦の「難しさ」を岩崎俊彌はしっかりと理解していた。

それでもなお、「日本の未来をかたちづくる、大事な一部」となるこの事業に果敢に挑んだ。

幾多の困難を乗り越えて

20世紀初頭、近代化による西洋式建築物の増加に伴い、日本における窓ガラスの需要が急増しました。さまざまな企業が板ガラスの製造を試みたものの、いずれも失敗。板ガラスの国産化は進まず、海外からの輸入に依存している状況にありました。

AGCグループの創業者である岩崎俊彌は、社会の発展に貢献する事業を起こすという志のもと、その難題に立ち向かうことを決意しました。「困難は覚悟の上のこと。生涯をかけてでも国産化は成功させる」と、1907年にAGCの前身となる旭硝子株式会社を設立し、ベルギーの技術者の技術サポートを得て、大規模な工場建設に取りかかりました。

1909年に工場は竣工し、岩崎俊彌は日本で初めて板ガラスの工業化に成功しました。しかしながら、当初は輸入品には質・価格ともに及ばず、困難は続きます。それでも諦めることなく、1914年には米国の新技术を導入した新工場を竣工し、輸入品に対抗できる目途をつけました。さらに、第一次世界大戦勃発の影響を受け、欧州からの板ガラスの輸入が止まったことも追い風となり、日本における国産の板ガラスは急速に普及していきました。

受け継がれるスピリット

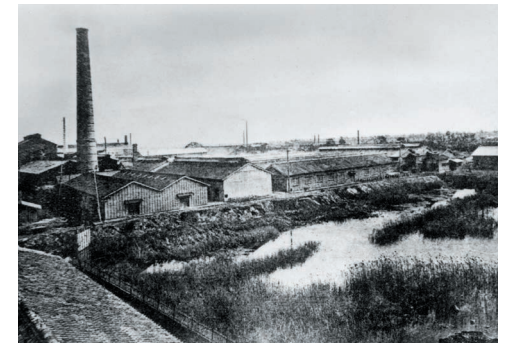
岩崎俊彌は、その半生をかけて情熱を注いだ板ガラスの国産化に成功した後、揺るぎないスピリットで、耐火煉瓦、ソーダ灰の製造にも果敢に挑んで成功し、現在のセラミックス事業、化学品事業の基礎を築きました。その後も、AGCグループは度重なる苦難を乗り越えながら、その時代・社会が必要とする独自の素材・ソリューションを創出してきました。この挑戦のスピリットは、世界中で働くAGCグループ全メンバーへと受け継がれています。



創業者 岩崎俊彌



ベルギー式手吹円筒法により日本で初めて板ガラスの工業生産を開始(1909年)



熔解槽窯に用いる耐火煉瓦の長寿命化に向けて自社生産を開始(1916年)



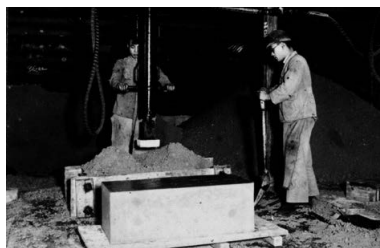
八橋市枝光(現 北九州市八幡東区)に建てられたソーダ灰工場(1917年より製造開始)

AGCグループの挑戦の歴史

「易きになじまず難きにつく」を体現してきたAGCの歴史

1916 耐火煉瓦事業に進出

ガラス熔解槽窯に欠かせない耐火煉瓦。創業当時は輸入に頼っていましたが、安定的に板ガラスを製造するため、自社の製造工場を建設し、自給体制を確立。やがて自給だけでなく外部からの受注も増え、鉄鋼やセメントなどの日本の基幹産業の発展を支えました。



1917 日本初のソーダ灰生産に挑戦

板ガラスの原料であるソーダ灰の自給は、創業時からの構想でした。第一次世界大戦により輸入が途絶えたことを契機に、ソーダ灰の製造設備を独自設計し、事業化。日本の化学工業の礎を築きました。ソーダ灰の副産品である飲料用重曹や野菜の促成栽培に効果がある「促肥素」なども販売し、当時の日常生活の一部を支えていきました。



1954 ブラウン管テレビ用ガラス事業に進出

急速に拡大するテレビ需要に応えるため、1954年よりテレビのブラウン管用ガラスバルブの生産を開始しました。ブラウン管用ガラスバルブの安定供給を通じて、家電メーカーの生産を支え、テレビの普及に貢献しました。



1956 自動車用ガラス製造を開始

急速に高まる自動車需要に応え、日本のモータリゼーションを支えるために、1956年より、自動車用加工ガラス事業に本格進出。それ以来、高品質な製品の安定供給を図るべく国内自動車ガラスメーカーとして初めて連続式自動曲面ガラス強化設備を導入するなど、業界のリーダーとして生産技術革新や生産体制強化に取り組むことで、日本の自動車産業の発展に貢献しました。



1966 板ガラスの新製法「フロート法」の導入

高度経済成長のもと、都市では大型ビル建設が相次ぎ、個人の住宅建設も活発化し、板ガラスの需要が拡大。品質・生産の両面で優れたフロート法を日本で導入し、建築様式の多様化に対応しました。欧州では、グラバーベル（現 AGCガラスヨーロッパ）が1965年にフロート法を導入しました。



1972 ETFEフッ素樹脂の開発

独自開発した原料の強みを活かし、幾多の困難を乗り越え開発したETFEフッ素樹脂。1972年の販売以降も技術開発に努めた結果、ETFEフッ素樹脂は幅広い温度帯で成形加工できる製品へと進化し、電線被膜から各種ライニング・コーティング製品等、さまざまな用途で活躍しています。



AGCグループの挑戦の歴史

「易きになじまず難きにつく」を体現してきたAGCの歴史

1975 イオン交換膜「フレミオン®」使用の苛性ソーダ電解法を開発

かつて苛性ソーダ製造における食塩電解技術には「水銀法」が用いられていましたが、水銀公害問題の深刻化を背景にその代替技術が求められていました。AGCグループは1975年に苛性ソーダ製造用のイオン交換膜「フレミオン®」を開発。その後、水銀法からの完全転換を図るとともに、消費エネルギーの削減など環境負荷低減に寄与しました。



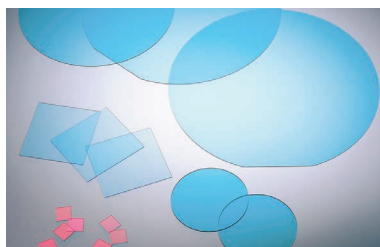
1985 合成石英ガラスを開発

長年培ってきたファインガラス・ファインケミカル・ファインセラミックスの技術を掛け合わせて製造を開始した合成石英ガラス。日進月歩の半導体プロセスに適し、半導体露光用レンズ、液晶露光用レンズ、フォトマスク基板、光学部材等、さまざまな用途に使われている高純度・高品質・高機能ガラスです。



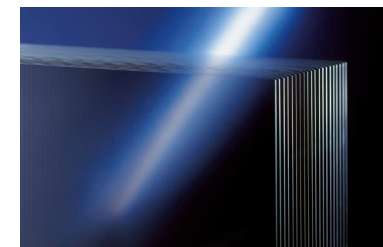
1992 赤外線吸収ガラスフィルターを開発

1992年に赤外線を吸収するガラスフィルターを開発。イメージセンサーの感度を人間の視感度に合わせるこの視感度補正ガラスフィルターは、デジタル一眼レフカメラやスマートフォン等のカメラに採用されているほか、監視カメラや車載用カメラなども支える重要な電子部材となっています。



1995 TFT液晶用ガラスの生産を開始

ブラウン管テレビに代わり急速に普及した薄型テレビ。この変化に素早く対応し、TFT (Thin Film Transistor) 液晶用ガラス基板を開発しました。透明性を有し、表面が平滑で平坦、耐熱性にも優れているため、テレビ、PC、スマートフォン、タブレット端末や自動車用など、多彩なディスプレイ用の基板として活用しています。



2011 スマートフォン用化学強化ガラス事業を開始

スマートフォンは、2000年代後半から全世界で爆発的に普及しました。2011年よりスマートフォン用化学強化ガラス事業を開始。スマートフォン・タブレット向けガラス「Dragontrail®」を全世界に向けて販売を開始し、スマートフォンの進化と発展に貢献しています。



2016 バイオ医薬品CDMOに本格参入

ライフサイエンス事業を立ち上げたのは1980年代。合成医農薬のCDMOを経て、2016年にバイオ医薬品CDMOに本格参入しました。世界各国のグループメンバーとともに、AGC Biologicsとして日欧米の3極体制で世界の医薬品の開発・製造をサポートしています。



CEOメッセージ

AGCで働くすべてのグループメンバーの皆様へ

グループ企業理念の「言葉」を 心に刻んで行動しよう

代表取締役・社長執行役員・CEO 平井 良典



AGCグループは、2002年にグループビジョン **“Look Beyond”** を策定して以来、時代に合わせてビジョンを改定しながら企業価値の向上に努めてきました。

近年、AGCの事業領域はさらに拡大し、グローバルにおいてAGCグループのメンバーはますます多様化しています。

また、企業に求められる社会的責任が広がり、若い世代を中心に、働く皆さんの価値観が変わってきているとも感じます。

これらの変化を受けて、2025年1月付で **“Look Beyond”** をアップデートしました。

新しい企業理念 **“Look Beyond”** では、AGCグループが提供すべき価値、AGCグループの存在意義を「私たちのパーパス」として再定義しました。

また、「私たちの価値観」は、時代にに合わせてアップデートし、AGCグループの皆さん一人ひとりが共有すべき行動原則としてより明確にしました。

企業理念 **“Look Beyond”** は、すべての活動のベースになるものです。

一人ひとりが自分ごととして理解し、体現することで、私たちAGCグループのありたい姿を実現していきましょう。

「企業理念」と「ブランドステートメント」との関係

AGCグループ内で **“Look Beyond”** を共有し、
多様なステークホルダーに向けて **“Your Dreams, Our Challenge”** を実践していきます

ブランドステートメント

AGCグループの全メンバーが体现すべき
社外ステークホルダーに対する姿勢

創業当初から受け継がれてきたAGCグループの
企業姿勢を端的に表しています。

Your Dreams, Our Challenge

易きになじまず難きにつく
人を信ずる心が人を動かす
世界に冠たる自社技術の確立を
開発成功の鍵は使命感にあり

AGCは、この創業の精神を礎に、
お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、
独自の素材とソリューションで、
時代のトップランナーたちを支えてきました。

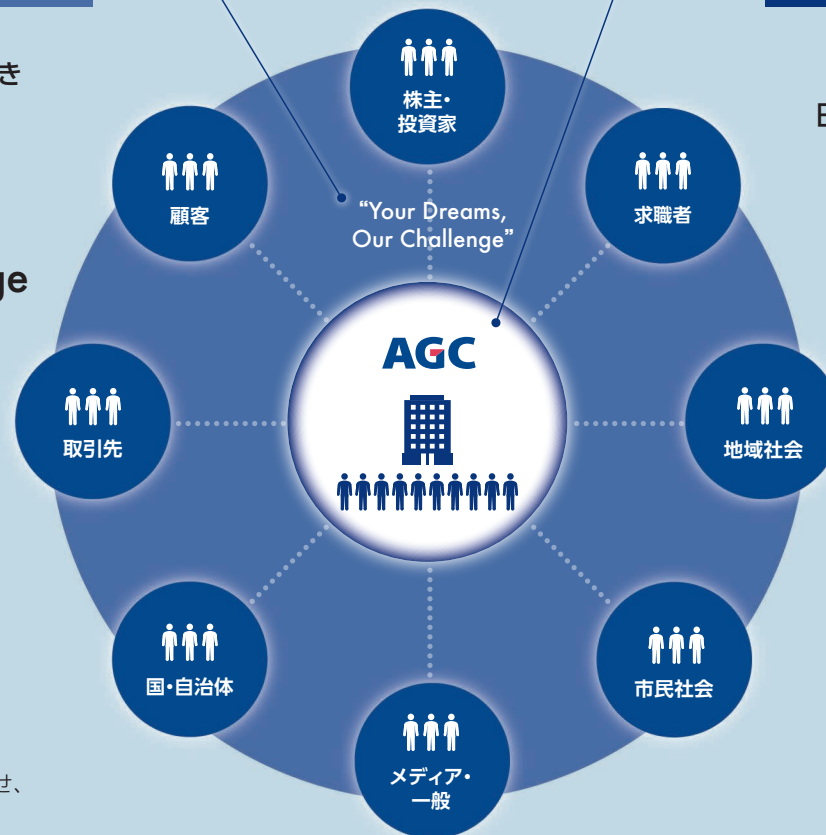
私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

企業理念

AGCグループの全メンバーが共有し
日々の仕事の中で踏まえるべき価値観

グループ全体が持つ大きな潜在力を発揮し、
世界に価値を提供し続けるという
想いが込められています。

“Look Beyond”





AGCグループ企業理念 “*Look Beyond*” 解説書

本冊子に関するお問合せ

AGC株式会社

広報・IR部 インターナルブランディングチーム

Mail : weare-agc@agc.com

AGC

Your Dreams, Our Challenge